常照

第８１８号

先日、月命日のお参りにあがったお宅で「お経とは何ですか?」と、お檀家さんより質問を頂きました。その場では「仏様の教えが記されています」と、サラッとしたお応えをしましたが、この常照を手に取っていただいている皆様に、お経とはどういったものなのかをお伝えできればと思います。

お経ができるまで

「仏様の教え」の「仏様」とは、仏教の開祖であるお釈迦様を指します。

お釈迦様が悟りを開かれ、その教えをお弟子さんや救いを求めていた方々へ説かれました。八十歳で入滅されてからもその教えはお弟子さん達により口伝で教え継がれてきましたが、残された教えが深く、膨大であったため、編集や整理をする為に結集（けつじゅう）という会議が開かれました。お釈迦様のお弟子さんたちがそれぞれ憶えていたものを「私はこの様に聞きました」と発表していた為、お経の題名の後に「如是我聞（にょぜがもん）」または「我聞如是（がもんにょぜ）」からお経が始まります。

お経の伝搬

仏教はインドから東へと伝わっていきました。口伝での継承は内容が変化しやすい、ということで文字にして残される様になり、現存している最古の経典はパーリ語という言語で記されています。

中国の仏教はインドの仏教教典を中国の漢字への翻訳から始まりました。

皆さんは「西遊記」という物語をご存知かと思います。三蔵法師が天竺へ教典を取りに行く物語です。中国に仏教が伝わりパーリ語・サンスクリット語では伝えづらいので1世紀頃から3世紀頃まで多数の経典が漢字に翻訳されました。漢訳された経典は中国から朝鮮半島を経て日本へ入ってきました。親鸞聖人の師である法然上人は、数多くの教典の中より阿弥陀如来の本願・浄土等の事柄が記されている三つのお経を選び抜かれて『浄土三部経』とし、私たちへ伝えてくださいました。

浄土三部経

『浄土三部経』とは「佛説無量寿経」・「佛説観無量寿経」・「佛説阿弥陀経」の三つのお経を指します。ここではどういった内容が説かれているのかを極々簡単にご紹介させて頂きます。

佛説無量寿経は大無量寿経とか大経とも呼ばれます。このお経には阿弥陀如来が全ての人々を真の幸せに導く為に、考えに考え抜かれて四十八の誓願をたてられた事、阿弥陀仏の成就なされた名号「南無阿弥陀仏」の大きな功徳により真実の救い「本

願」にあえる事、またお釈迦さまがこの世に生まれたのはこの教えを説くためであった事などが説かれています。

佛説観無量寿経は観経とも呼ばれ、「観」と称しているだけあって阿弥陀如来と西方の極楽浄土を観想し「いづれの行もおよびがたき罪悪深重の凡夫」であっても、南無阿弥陀仏のお念仏を称えることによって救われ、西方極楽浄土に往生できる事を説く経典です。

佛説阿弥陀経は小経とも呼ばれ、阿弥陀如来と極楽浄土の様子が詳しく説かれています。この浄土に往生するために阿弥陀仏の名号を一心に念ずること「念仏」を説き、六方世界の諸仏菩薩もこのことを称賛しているとして、浄土往生を簡潔平易に明らかにしています。

偈文（げもん）

私たち真宗門徒は正信偈を聞く機会が多いと思います。他にも「光顔巍々（こうげんぎぎ）」から始まる讃佛偈や「我建超世願（がごんちょうせいがん）」から始まる三誓偈なども聞く機会が多いでしょう。これらはお経の一部分、又は親鸞聖人の著した教行信証の中にある一部分を抜粋したものです。4文字から7文字を一句とし、仏さま菩薩（ぼさつ）さまをたたえる偈（うた）の形式をとったものとなっております。

お経とは

年忌法要や月命日などでお経を聞

くと思います。その時普段の話声と違って声が高かったり、大きかったりと感じたことありますか？先述の通りお経というのは仏様の教えであり、お釈迦様のお説法です。お釈迦様の説かれた言葉を文字にして伝えてきたものです。　お釈迦様の説法は「獅子吼」といって声が大きく雄大でありました。お経を聴聞する方々の心に響き渡り、読経している間、お釈迦様のお説法を頂くという厳粛な気持ちを保ちたいものです。内容を少しでも知っているとお経を頂く姿勢が変わると思います。

是非とも本紙、常照をはじめとして、お寺で法話を聴聞したり、ご自分で仏教書を開いてみましょう。

三月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期　三月七日(月)～十一日(金)
休座

○後期　三月十三日(日)～十六日(水)
北海道教区 札幌組 浄土寺
講師　佐々木 光明 師

○春季彼岸会布教
三月十九日(土)～二十一日(月)
北海道教区 留萌組 善勝寺
講師　吉川 秀洋 師

○場所　小樽別院内
○時間　午後二時(法要終了後)～午後三時半

◎三月二十一日(月)は春季彼岸会の御中日のため、月忌参詣はお休みさせて頂きます。彼岸の法要・法座は席の間隔を保ち、換気実施の上、開催いたします。どうぞお寺にお参りください。尚、法座は急遽中止となる可能性がございますので確認の上、お参りください。

発行所
〒047-0017
小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院
電話(〇一三四)二二一〇七四四番
FAX　二九一四〇八〇番
テレホン法話　二七一一六一六番